

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・さいたま市学習状況調査において、多くの学年で向上が見られた。しかし、上記の分析のように特に課題の見られる問題があるので、年度内に復習をして理解を深める。
思考・判断・表現	・さいたま市学習状況調査において、多くの学年で向上が見られた。しかし、上記の分析のように特に課題の見られる問題があるので、年度内に復習をして理解を深める。 ・次年度も引き続き算数資料室を整備し、教材教具を有効に活用できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・さいたま市学習状況調査においては多くの学年で向上が見られた。算数科の授業の仕方について、学校課題研修を通して学校全体で共通理解し、授業を行うことでより一層の向上を目指していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査及びR5年度市学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差(全国平均正答率と学校平均正答率の差)を、1pt向上させる。	⇒ ・算数科の授業の仕方について、学校全体で共通理解し、授業を行う。(ノート指導の仕方、TTの授業でのT1とT2の役割分担等) ・「ドリルパーク」等を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査及びR5年度市学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差(全国平均正答率と学校平均正答率の差)を、1pt向上させる。	⇒ ・算数科の授業の仕方について、学校全体で共通理解し、授業を行う。(板書の仕方、伝え合いの仕方等) ・算数資料室を整備し、教材教具を有効に活用できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が問題を見いだしたりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差(市平均正答率と学校平均正答率の差)は、3学年で以前の正答率差と比べて2pt向上した。全国学力・学習状況調査における算数の「知識・技能」の正答率差は、(全国平均正答率と学校平均正答率の差)変化がなかった。	B
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差(市平均正答率と学校平均正答率の差)は、3学年で以前の正答率差と比べて2pt向上した。全国学力・学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」の正答率差は、(全国平均正答率と学校平均正答率の差)1pt低下した。	B
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査における「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対して、81%の児童が肯定的な回答をした。さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、高学年は肯定的な回答をした児童の割合が市の割合を上回った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語:特に(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で課題が見られた。漢字は比較的定着しているため、敬語の使い方を重点的に指導する。 算数:二次元の表から読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題に課題が見られた。各学年でデータの活用の単元で丁寧に指導する。
思考・判断・表現	国語:特に話すこと・聞くことに関する問題に課題が見られた。約6割の児童が解答時間不足だったことも課題である。日常的に読書に親しみ、情報をよりよく読み取ることができるようにする。 算数:比例関係を用いて知りたい数量の大きさを求める問題に課題が見られた。問題文から、基準量や比較量を正確に捉えられるよう、繰り返し指導する。
主体的に学習に取り組む態度	国語:「国語の勉強は好きですか」、「国語の勉強は大切だと思いますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を大きく上回っている。意欲を理解度につなげていきたい。 算数:「算数の勉強は好きですか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を大きく下回っている。できる、わかる楽しさをなるべく多く味わわせ、意欲につなげていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、特に主語と述語の関係に課題が見られた。 算数では、直角についての理解、立方体の構成についての理解に課題が見られた。	小4	国語では、本校の平均正答率が市の平均正答率を大きく下回った問題はなかった。 算数では、3位数÷1位数、正三角形について、折れ線グラフの読み取りに課題が見られた。
小5	国語では、主語と述語の関係の理解に課題が見られた。 算数では、小数・分数の計算、時速と分速の関係、0を含む測定値の平均の理解に課題が見られた。 社会では、八方位の理解に課題が見られた。 理科では、電流のはたらきの理解に課題が見られた。	小6	国語では、本校の平均正答率が市の平均正答率を大きく下回った問題はなかった。 算数では、除法の意味、比例の活用に課題が見られた。 社会では、鎌倉幕府と御家人の関係の理解に課題が見られた。 理科では、地層の理解に課題が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学校課題研修では、「指導の個別化」「学習の個性化」についての理解を深め、1時間の授業の流れや単元計画を工夫するように全ての学年が意識して授業改善を行うことができたが、児童の算数科における知識・技能の向上に結び付けることができない項目もあった。そこで来年度は、学校課題研修を通して教職員の指導力を磨き、児童の知識・技能の更なる向上を図る。
思考・判断・表現	算数科における授業の型「芝原小スタンダード」を全職員で共通認識を図ることができた。来年度のさいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいました。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上得られるように、わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成を目指して学校課題研修に取り組んでいく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を3ポイント以上下回っており、算数の確かな学力の定着が課題である。 【指導上の課題】習熟度が低い児童は、学習に主体的に取り組む割合が低く、意欲的に課題に取り組むことができない児童がいる。	⇒ 従来の問題解決型の学習に捉われるのではなく、1時間の授業の流れや単元計画を工夫することで、「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業改善を行っていく。【単元ごとに学年で教材研究を行う。】そうすることによって、児童が主体的に学習に取り組むことで、基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。
思考・判断・表現	【学習上の課題】主体的に算数の授業に取り組む児童は、市全体から見ると少なく、算数の授業に粘り強く取り組むとともに、授業の中で自らの学習を調整する力が不十分である。 【指導上の課題】教員経験の年数による指導力に差があると考えられる。	⇒ 今年度の芝原小学校は学校課題研修として、「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を目指している。個別最適な学びを取り入れた授業改善を行うことで、児童が粘り強く学習に取り組むとともに、自己調整能力を育成すること目標としている。【算数科における授業の型「芝原小スタンダード」を作ること、指導上の課題の改善を図る。】

<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	学校課題研修では、「指導の個別化」「学習の個性化」についての理解を深め、1時間の授業の流れや単元計画を工夫するように全ての学年が意識して授業改善を行うことができた。さいたま市学習状況調査の算数「図形」の観点では同集団比較において、4学年でR5年度の結果を上回ることができた。
思考・判断・表現	A	学校課題研修の取り組みとして、算数科における授業の型「芝原小スタンダード」を全職員で共通認識を図ることができた。学校全体で指導を統一できるよう、算数の学習で使用する掲示物やホワイトボードなどの整備をすることができた。令和6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいました。」の質問項目における肯定的な回答の割合は94%であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語：(1)言葉の特徴や使いに関する事項で課題が見られた。特に、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られたため、漢字を着実に定着させることが今後の課題である。 算数：A「数と計算」において、除数が小数である場合の除法の計算に大きな課題が見られた。また、「データの活用」において、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題に課題が見られた。昨年度と同様にD「データの活用」の領域に課題が見られたため、各学年でデータの活用の単元で丁寧に指導する。
思考・判断・表現	国語：読むことに課題が見られた。その中でも、人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかに課題が見られた。日常的に読書に親しみ、情報をよりよく読み取ることができるようになる。 算数：示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表す問題に課題が見られた。問題文から課題を解決するために必要な情報を読み取ることができるよう、繰り返し指導する。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数科において、どの領域においても、知識・技能面において課題が見られた。そのため、系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、ドリルパーク等を活用して繰り返し学習させたりして、さらなる学習内容の定着を図っていく必要がある。
思考・判断・表現	小3・小4では、国語・算数ともに無回答率が高かった。今後は自分の考えをもたせるために、自分の考えを言葉で説明させる活動に重きを置いていく。また、最後の問いでの無回答率が大幅に高かった。そのため、教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見つける活動を取り入れる必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	学校課題研修では、「指導の個別化」「学習の個性化」についての理解を深め、1時間の授業の流れや単元計画を工夫するように全ての学年が意識して授業改善を行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	A	学校課題研修の取り組みとして、算数科における授業の型「芝原小スタンダード」を全職員で共通認識を図ることができた。1学期には、中学年での研究授業・研究協議を行い、個別最適な学びを取り入れた授業の改善を図った。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)